**英文構造理解のためのメソッド**

**【1】英語を英語で理解する方法は有効か？**

　現実に生徒の置かれている言語環境は日本語の世界であり、その中で２４時間暮らしている。入ってくる言葉はほとんどが日本語。この環境の中で異言語である英語を学ぶことはドイツ人やフランス人が英語を学ぶよりも困難なのは当然。言語体系が全く異なる。

　そのため、疑似環境をつくり、そこで英語を学ぶという試みもなされている。つまり、英語の授業中、先生はすべて英語で説明する。そうすることで英語脳を育て日本語では使わない脳の部分を（ウエルニッケ野「聞く能力」、ブローカ野「話す能力」）働かすことで英語を習得するという方法も一理ある。その考え方は英語を理解する脳の回路と日本語を理解する脳の回路は別にあるとする考えに基づく。しかし、現実に児童・生徒が週何時間かの限定された授業時間のうちに、上記の方法をとったとしても圧倒的な日本語環境下で、所謂、英語脳を有効に起動させる生徒はどのくらいいるだろうか？　生徒のリスニング力を見ていると音感のいい生徒、とりわけ音楽で言うところの絶対音階を持っている生徒は特別多く英語を聞いていなくても、リスニング力の結果は断然に良い。そういう生徒以外の大多数の生徒はそうはいかない。英語のみで授業をした場合に当て嵌めると、公立中学校の授業で、それを実施した場合、個人差がかなりでる。途中で分からなくなり、脱落する生徒の割合はかなり高くなるのではないか。英語を小さいときからかなり仕込まれるか、音感が生まれつき良いか以外の生徒は大変なことになる。現在、高等学校で行われている英語のみの授業が実際どうなっているか？　横浜国際に進学した生徒ですら、「英語の授業はどう？」と聞くと「だいたい分かる」と言う。「だいたい分かるか」でも十分なのかもしれないし、そこは英語専攻科の高等学校であるから当然であるかもしれない。英語を将来専門的に利用する職業に就きたいと思う生徒ならば上記の学習内容は必要であるかもしれないが、一般の生徒にまでそれを一律に負わせることにどういう学習効果があるのか疑問である。

　すべての生徒が過不足なく英語の基礎を身につけられる英語メソッドは英語を英語で学ぶことからでは生み出されることは困難であると思われる。

**【2】英語基礎力定着メソッドとは？**

私は誰でも過不足なく中学校英語の基礎を身につけられる方法を２１年間授業の中で実践してきた。それは、単純なことで**英語の構文**を頭に入れることである。毎週、前回の授業で学習した単元中の特徴的な構文を英作文として出題する。１０問（１２問か１１問中から）英単語も構文の中で覚えてしまうし、修飾・被修飾関係、文型もすべて英作文テストの中で学習できる。そういうことを毎週積み重ねることで、**英語学習の基礎力**が安定定着してくる。それだけでも学校の定期テストはある範囲の英文を理解し覚えるだけで高得点は取れる。しかし、その前提として英語構文の文法的理解が不可欠となる。文法というと堅苦しく面倒で煩雑そうであるが、その文法を分かりやすく簡潔に教えることが英語教師の力の見せどころである。特に、中２学年で学習する不定詞の３用法から体系的な英語学習が始まると思っている。不定詞はもともと、動詞が名詞・形容詞・副詞として一文中で何度も使用でき表現を豊かに､且つ柔らかにすることができる。

**【3】英文構造理解のためのメソッド**

**①語･句･節レベル理解のキーワードは名詞･副詞･形容詞**

　不定詞の３用法、つまり、名詞的用法・副詞詞的用法・形容的用法には文構造を体系的に理解・整理できる要素がすべて含まれている。ポイントは、名詞・副詞・形容詞の働きの意味を理解することにある。

　この不定詞を起点として、動名詞は名詞、分詞（現在分詞と過去分詞）は形容詞、分詞構文（高校で学習）は副詞、と他の所謂、準動詞を3つに分類できる。

　さらに、その句レベルの、名詞・副詞・形容詞が節レベルに移行する。

名詞は名詞節を導く接続詞（that etc）、間接疑問文。

副詞は時・条件・理由・譲歩などの副詞節を作る接続詞。

関係代名詞・関係副詞はすべて先行詞である名詞を修飾する形容詞節。

※文構造理解のための句レベル節レベルの移行図参照

　これら、語→句→節を名詞・副詞・形容詞の角度から整理すると様々な文が容易に分類できる。

　文型は５つの文型に簡潔に分類する。人によっては数十個の文型があると言うが、ここは実践的に五文型に限る。

**②文型理解のポイント**

**五文型**

S+V

S+V+C

S+V+O

S+V+O+O

S+V+O+C

S・V・O・Cが文主要素であるが、副詞修飾語句が何であるかを理解しないとS・V・O・Cの4要素を区別できない。その副詞とは、形容詞的要素とともに修飾語句(modifier)を構成しているが、厳密に区別してしまうと、形容詞は文の主要素(S・V・O・C)の補語（Ｃ）になったり、主語(S) 目的語（Ｏ）に修飾語として直接かかる働きをするため、文章中での区別が煩雑になってしまう。

The book on the table is my sister’s

　　 S V 　 C

on the table は修飾語句であるが形容詞句のため、それがかかるThe bookと一体と考える。(文型は第2文型)

　そのため、所謂、修飾語(M)として使用するものは副詞的修飾語句だけとなる。

副詞は被修飾語から離れた位置にあることが多く、文構造を整理するためには区別しやすい。

My dog runs fast in the park near my house every day.

S 　 V M 　 M 　　 M 　 M

MはすべてVにかかる修飾語句である。(文型は第1文型)

**【4】英語習得のための方法とその採用時期**

　上記した、三要素・三分類（名詞・副詞・形容詞）と五文型の理解は、文構造を理解するためのメソッドである。これらをしっかり理解した生徒たちは高校へ進学後、高2までは英語について躓くことなく進められる。受験となるとまた、別の要素、長文を早く正確に読解する、語彙数を増やすなど新しい課題に挑戦しなければならないが、中2〜高1くらいまでに文構造理解のメソッドを身につけると、そこを骨組みにして、例えば自らのＯＳをバージョンアップしていくようにすればいいようになる。その上で、最初に取り上げた「英語を英語で理解する」方式を採用することは、次なるレベルの英語を習得するための方法としては最適と思われる。つまり、どの方法をいつ採用し行うかが英語学習のキーになる。

　今回ここでは、公立・私立を問わず中学校の生徒を対象とした英語学習メソッドなるものを提案させて頂いたつもりである。幼児期から英語に慣れ親しみ小学生のうちに英検2級を取得した、数年間海外にいて英語で生活していた等の生徒に適するメソッドとは言えないと思う。しかし、大多数の日本語環境下で外国語としての英語を学習しはじめた中学生には、あるいは英語が分からない、苦手だと思っている高2までの高校生には適する学習法と思っている。

　追伸：文中の英語内容の説明はここでの説明上、簡潔になりすぎた嫌いはあるかもしれない。各項目の説明に対応する英語の例文を掲載すべきかとも思われるが、それをすると量が膨大になり、文法の解説書を1冊書き上げることにもなりかねず、今回は説明不足の感はぬぐえないながらも、実施しているメソッドのだいたいの方向性と理解に資することにとどめた。

※文構造理解のための句レベル節レベルの移行図

